



TITLE:

後部尿道Inverted Papillomaの1例

AUTHOR(S):

徳光, 正行; 井内, 裕満; 森川, 満; 八竹, 直

CITATION:

徳光, 正行 ...[et al]. 後部尿道Inverted Papillomaの1例. 泌尿器科紀要
1992, 38(2): 219-222

ISSUE DATE:

1992-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117468>

RIGHT:

後部尿道 Inverted Papilloma の1例

旭川医科大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 八竹 直教授)

徳光 正行, 井内 裕満, 森川 満, 八竹 直

A CASE REPORT OF INVERTED PAPILLOMA OF THE POSTERIOR URETHRA

Masayuki Tokumitsu, Hiromichi Iuchi,
Mitsuru Morikawa and Sunao Yachiku

From the Department of Urology, Asahikawa Medical College

A case of inverted papilloma of the posterior urethra is reported.

A 59-year-old male was admitted with the chief complaint of hematuria. Urethrogram revealed a small defect in the neck of the bladder. Endoscopic examination revealed a polypoid tumor on the stalk arising from prostatic urethra, and transurethral resection was performed. The patient has been subsequently followed up and there has been no evidence of recurrence.

Although 141 cases of inverted papilloma have been reported in many anatomical sites of the urinary tract, only 19 cases involving the posterior urethra have been described in Japan. This is the 20th case of a posterior urethra.

(Acta Urol. Jpn. 38: 219-222, 1992)

Key words: Inverted papilloma, Posterior urethra

緒 言

Inverted papilloma は、移行上皮が間質内に内反性に増殖を示す腫瘍である。尿路での発生例は大部分が膀胱であり、尿道発生例は比較的稀である。今回われわれは、後部尿道に発生した inverted papilloma の1例を経験したので、本邦報告例の集計とともに若干の文献の考察を加え報告する。

症 例

患者: 59歳, 男性

主訴: 肉眼的血尿

現病歴: 1988年10月から2年間に、無症候性肉眼的血尿を3度繰り返した。その度に近医を受診し止血剤等の内服治療を受けていた。1990年12月13日、症状の改善が認められず当科を受診した。膀胱鏡にて前立腺部尿道に腫瘤を認め、治療目的で入院となった。

既往歴: 10数年間におよぶ慢性肝炎

家族歴: 特記すべきことなし

現症: 視・触診上、胸腹部や外陰部に異常を認めない。

血液・生化学検査: 慢性肝炎によると思われる軽度肝機能障害を認める以外に著変はない。

尿検査: 沈渣に多数の赤血球と、8~10/hpf の白血球を認めた。細胞診にて核の濃縮・不整型を示す移行上皮細胞を認めたが、明らかな悪性細胞は指摘されなかった。

画像診断: KUB・IVP にて異常所見はなく、尿道造影で後部尿道から膀胱頸部にかけて、陰影欠損を認めた (Fig. 1)。

膀胱鏡検査: 膀胱内は軽度肉柱形成を認めるのみであった。内尿道口より約 5 mm 遠位の前立腺部尿道

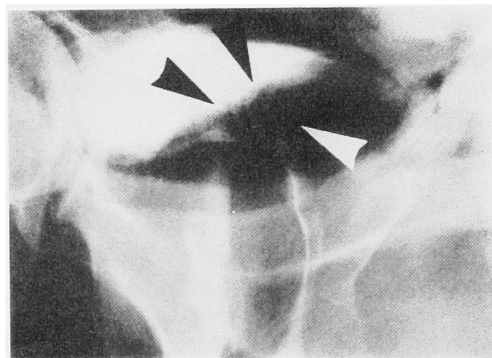


Fig. 1. Urethrocystogram showing a filling defect at the bladder neck.

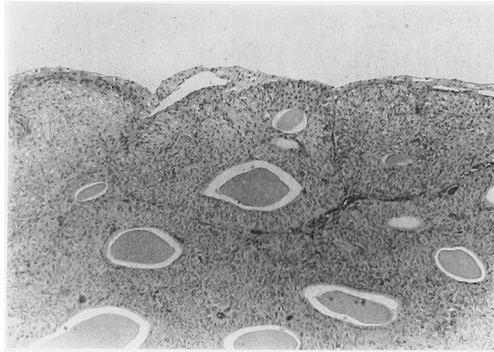


Fig. 2. Microscopic appearance of resected tumor. (H.E. ×25)

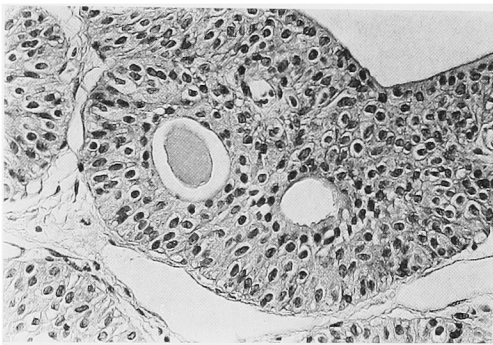


Fig. 3. Higher power view of the tumor. Neither nuclear atypia nor mitosis were observed. (H.E. ×100)

の3時から5時の位置より、膀胱内に突出する表面平滑、拇指頭大、先端が一部乳頭状の有茎性腫瘍を認めた。

以上より、後部尿道腫瘍の診断のもとに、経尿道的切除術を施行した。

組織学的所見：腫瘍は表層が数層の移行上皮に覆われ、表層から内部に向かって上皮索が乳頭状に陥入していた (Fig. 2)。上皮索の大部分は5～6層の細胞から成り、個々の細胞は異型性に乏しく、核分裂像を認めなかった。上皮索内にはエオジン好性物質の入った小嚢胞の散在を認めた (Fig. 3)。

以上の所見より、典型的な inverted papilloma と診断した。術後経過は良好で、患者は術後10日目に退院し、3カ月を経過した現在、再発を認めていない。

考 察

尿路の inverted papilloma は、1963年の Potts ら¹⁾の報告以来、欧米では250以上の症例が報告されており²⁾、尿路腫瘍全体の約2%を占めるとされてい

Table 1. Distribution of age and sex. () ...Cases of posterior urethra.

年齢	男性	女性	計
0～9	1 (0)	0	1
10～19	2 (0)	0	2
20～29	9 (2)	0	9
30～39	16 (1)	1	17
40～49	12 (3)	2	14
50～59	24 (3)	5	29
60～69	32 (5)	2	34
70～79	23 (4)	2	25
80～	5 (1)	0	5
不 明	(1)		5
計	124 (20)	12	141

Table 2. Sites of inverted papilloma.

膀胱内	110例	78.0%
頸 部	45例	31.9%
三角部	40例	28.4%
尿管口周囲	11例	7.8%
その他	14例	9.9%
後部尿道	20例	14.1%
尿 管	8例	5.7%
腎 盂	2例	1.4%
外尿道口	1例	0.8%
計	141例	100.0%

る。

本邦では稲田らによる報告³⁾を嚆矢とし、鈴木ら⁴⁾がまとめた107例に、われわれが検索しえた34例を加え、1990年12月までに自験例を含め141例の報告がある。その内訳は、男性124例、女性12例、性別不明5例、男女比は約10:1と、圧倒的に男性に多い、発症年齢は男性は8歳から87歳平均53.3歳、女性は36歳から72歳平均56.6歳、全体では平均53.6歳であり、50歳～70歳代に多く、男性では若年から発症をみている (Table 1)。発生部位は、膀胱が110例と全体の約78%を占め、後部尿道は20例 (約14%)、以下尿管8例、腎盂2例、女性外尿道口1例が報告されている (Table 2)。

つぎに、後部尿道発生の報告全20例について見ると⁵⁻²¹⁾ (Table 3)、年齢は26歳から80歳、平均57.9歳と、尿路全体のに比べ、やや高齢発症の傾向が認められた。20例中、肉眼的血尿を主訴としたものが13例を占め、ついで排尿困難が4例であった。大きさは米粒大から3cm大までさまざまであり、形態は細長く有茎性で表面平滑なものが多数を占めた。腫瘍発見時、多発であったものは2例のみであった。治療に関して

Table 3. Survey of inverted papillomas of posterior urethra reported in the literature up to 1990.

報 告 者	年 齢	主 訴	大 き さ	治 療
1 井 口 ⁹⁾	26	血 尿		TUR
2 斯 波 ¹⁾	45	尿線途絶	小指頭大	TUR
3 "	44	排尿困難	小指頭大	TUR
4 永 井 ⁷⁾	57	血 尿	30×12×10mm	TUR
5 矢 嶋 ⁸⁾	61	血 尿	20×10×8 mm	TUR
6 藤 沢 ⁸⁾	75	排尿困難	φ 15mm	経腹的切除
7 水 谷 ¹⁶⁾	80	血 尿		TUR
8 木 村 ¹¹⁾	53	血 尿	棍棒状	TUR
9 後 藤 ¹²⁾	39	血 尿	多発性	TUR
10 長谷川 ¹³⁾	27	血 尿	小豆大	TUR
11 高 橋 ¹⁴⁾	77	排尿困難	長径 8 mm	TUR
12 小 浜 ¹⁵⁾	69	血 尿	小指頭大	TUR
13 石 川 ¹⁶⁾	76	排尿困難	米粒大	TUR
14 小 濱 ¹⁷⁾	67	尿 潜 血	大豆大	TUR
15 鈴 木 ⁴⁾	62	血 尿	長さ24mm	TUR
16 山 田 ¹⁸⁾				TUR
17 池 井 ¹⁹⁾	41	血 尿	小指頭大	TUR
18 原 ²⁰⁾	73	血 尿	27×10mm	経腹的切除
19 住 吉 ²¹⁾	69	血 尿	多発性	TUR
20 自験例	59	血 尿	拇指頭大	TUR

は、自験例を含め18例に経尿道的切除術が、2例に経腹的切除術が行われており、再発例の報告はない。

Inverted papilloma の成因として、2つの説が論じられている。Cummings²²⁾, DeMeester²³⁾は、慢性炎症に続発する過形成であると述べている。しかし慢性膀胱炎に罹患し易い女性に少なく、罹患し難いと考えられる若年者にも見られている。また病理組織学的に炎症性の反応を認めないものも多い²⁴⁾。以上のことから、過形成説のみでの説明はやや困難であると考えられている。新生物であるとする説は、Trites²⁵⁾, 長船²⁶⁾により述べられている。さらに藤田²⁷⁾は、ラットへの BBN 投与による実験的膀胱腫瘍発生過程において高頻度に inverted papilloma が発生すると報告している。また金子²⁸⁾は、走査電顕を用いた検索により inverted papilloma は分化型移行上皮腫瘍よりさらに分化した腫瘍であると述べており、移行上皮から発生した新生物とする意見が大勢を占めている。しかしながら、その成因、発生・発育過程は現時点においては、明確にされたとは云い難い。

組織学的検索において、核分裂像や異型性を認めた症例、悪性像を見た症例の報告が近年次第に増加していること (Table 4), さらに症例は少ないが再発を見たものも報告されていること (Table 5) から、充分な定期的経過観察が必須であると考ええる。

結 語

本邦20例目の後部尿道に発生した inverted papilloma の1例を報告し、尿路に発生した inverted papilloma 本邦報告141例の集計を行うとともに、成因とその取扱いについて文献的考察を加えた。

Table 4. Cases of inverted papillomas with malignant transformations.

報 告 者	発生部位	組 織 所 見
永井 (1979)	後 部 尿 道	一部にTCC・G1~2様変化
Uyama (1981)	左 腎 盂	一部にTCC相当の変化
黒岡 (1985)	左 尿 管 口	一部にTCC・G1相当の変化
横山 (1989)	膀胱三角部	3/4にTCC・G1相当の変化
富田 (1989)	内尿道口部	少数の核分裂像 TCC・G1・G2の再発
長田 (1990)	膀 胱	一部にTCC・G1を伴う
山田 (1990)		一部にTCC・G1相当の変化
内田 (1990)	膀胱頸部	一部にTCC・G2を伴う
住吉 (1990)	膀胱・尿道	2/3にTCC・G2相当の変化

Table 5. Cases of recurrent inverted papillomas

報 告 者	初発部位	再発部位	再発までの期間
黒岡 (1985)	内尿道口	左尿管口	1年7ヵ月
横山 (1985)	膀胱頸部	同 部	1年10ヵ月
富田 (1989)	膀胱頸部	膀胱後壁	19ヵ月・35ヵ月 43ヵ月・53ヵ月
山田 (1990)	右尿管口	膀胱内3ヵ所	6 年

本論文の要旨は第305回日本泌尿器科学会北海道地方会において発表した。

文 献

- 1) Potts IF and Hirst E: Inverted papilloma of the bladder. J Urol 90: 175-179, 1963
- 2) Mattelaer J, Leonard A, Goddeeris P, et al.: Inverted papilloma of bladder: Clinical significance. Urology 32: 192-197, 1988

- 3) 稲田俊雄, 落合京一郎: 膀胱の Inverted papilloma. 癌の臨床 17: 774-776, 1971
- 4) 鈴木高穂, 坂本文和: 前立腺部尿道内反型乳頭腫. 臨泌 44: 1087-1089, 1990
- 5) 井口正典, 金子茂男, 南 光二, ほか: 男子後部尿道腫瘍の3例. 泌尿紀要 23: 173-182, 1977
- 6) 斯波光生, 大橋伸生, 波治武美, ほか: Inverted papilloma の3例. 泌尿紀要 23: 785-790, 1977
- 7) 永田信夫, 井口正典, 秋山隆弘, ほか: "Dysplastic Inverted Papilloma" の1例. 泌尿紀要 25: 1055-1060, 1979
- 8) 矢嶋息吹, 山下利幸, 山本 洋, ほか: 男子後部尿道腫瘍の1例 Inverted papilloma. 日泌尿会誌 71: 806-807, 1980
- 9) 藤沢章二, 徳原正洋: 尿道前立腺部に発生した Inverted papilloma の1例. 西日泌尿 42: 827-832, 1980
- 10) 水谷雅巳, 米田健二, 松本 晁, ほか: Inverted papilloma の2例. 日泌尿会誌 73: 683, 1982
- 11) 木村 明, 友石純三, 蓑和田滋, ほか: 下部尿路 inverted papilloma の3例. 臨泌 38: 895-897, 1984
- 12) Gotoh M, Tsai S, Murase T, et al.: Inverted papilloma of the urinary bladder: report of two cases. Acta Urol Jpn 30: 1645-1649, 1984
- 13) 長谷川総一郎, 絹川常郎, 松浦 治, ほか: 後部尿道に発生した Inverted papilloma の1例. 泌尿紀要 33: 91-95, 1987
- 14) 高橋康之, 佐伯英明, 市川晋一, ほか: 前立腺部尿道に発生した内反性乳頭腫. 臨泌 42: 80-81, 1988
- 15) 小浜吉照, 渡辺裕修, 大橋洋三, ほか: 下部尿路 Inverted papilloma の3例. 西日泌尿 50: 1347-1350, 1988
- 16) 石川泰章, 片山孔一, 井口正典, ほか: Inverted papilloma の4例. 泌尿器外科 3: 471-474, 1990
- 17) 小濱康彦, 加治木邦彦, 阿世知節夫, ほか: Inverted papilloma の2例. 西日泌尿 51: 1769, 1989
- 18) 山田智二, 大橋伸生, 山崎秀博, ほか: Inverted papilloma 16例の検討. 日泌尿会誌 81: 1115, 1990
- 19) 池井義彦, 蓮井良造, 大藤哲郎, ほか: 尿道の inverted papilloma の1例. 日泌尿会誌 81: 1276, 1990
- 20) 原 啓, 佐藤 稔, 桑原 孝, ほか: 前立腺部尿道に発生した内反性乳頭腫. 日泌尿会誌 81: 1425, 1990
- 21) 住吉義光, 秋山欣也, 矢野正憲, ほか: 膀胱 Inverted papilloma の悪性化と思われる移行上皮癌. 泌尿器外科 3: 527-530, 1990
- 22) Cummings R: Inverted papilloma of the bladder. J Path 112: 225-227, 1974
- 23) DeMeester LJ, Farrow GM and Utz DC: Inverted papillomas of the urinary bladder. Cancer 36: 505-513, 1975
- 24) 岡本 司, 梶尾克彦, 安田英己: 膀胱 Inverted papilloma の2例—組織形態と文献的考察. 癌の臨床 25: 1443-1447, 1979
- 25) Trites AEW: Inverted urothelial papilloma: report of two cases. J Urol 101: 216-219, 1969
- 26) 長船匡男, 永井信夫, 有馬 明, ほか: 膀胱の Inverted papilloma —その発生機序に関する臨床的および病理組織学的考察. 泌尿紀要 22: 635-641, 1976
- 27) 藤田公正, 藤田弘子, 大田原佳久, ほか: Inverted papilloma の実験腫瘍発生. 日泌尿会誌 70: 1033, 1979
- 28) 金子裕憲, 赤座英之, 森山信男, ほか: 膀胱 Inverted papilloma の1例—電顕的検討を中心に. 臨泌 38: 73-76, 1984

(Received on March 20, 1991)
(Accepted on May 17, 1991)